

審査の結果の要旨

氏名 八島 陽子

本研究は、急性膵炎患者における重症化の危険因子、とくに肥満との関係を検討するため、膵炎発症時の CT 画像を用いて内臓脂肪面積を測定しえた 124 例における、患者因子と重症化との関係を検討したものであり、下記の結果を得ている。

1. 単変量解析の結果、性別・年齢・体重・BMI・成因・Amy・Ca・CRP では重症群と非重症群の間に有意差を認めず、Alb および L1/2、L2/3、L3/4、L4/5 の 4 断面の内臓脂肪面積・皮下脂肪面積・腹囲で $p < 0.05$ となる有意差を認めた。
2. 単変量解析で $p < 0.2$ であった各項目（年齢、身長、体重、成因、BMI、Ca、CRP、Alb）に加えて、L2/3 断面の内臓脂肪面積・皮下脂肪面積・腹囲について急性膵炎が重症か非重症かに関する多変量解析を行った結果、内臓脂肪面積・皮下脂肪面積・Alb の 3 つが有意であった。
3. 内臓脂肪面積の多寡により急性膵炎のどの合併症の出現に差があるのかを検討した。内臓脂肪面積 50cm^2 別に分類して、性別、重症者数、死亡者数および Atlanta criteria の合併症分類の各項目について exact trend test を行った結果、内臓脂肪面積の多寡と、性別、重症者数、呼吸不全合併、仮性嚢胞合併、Ranson score ≥ 3 および APACHE II score ≥ 8 の 6 項目について、有意差を認めた。内臓脂肪が多いほど、急性膵炎は重症化しやすいことと、仮性嚢胞ができやすいことが示された。
4. 健常成人群 248 人を対照として、急性膵炎患者群 124 人との症例対照研究を行った結果、BMI、VAT、SAT、WC の値は、2 群間に有意差を認めず、内臓脂肪率 (VAT/VAT+SAT) のみが、有意に急性膵炎群で高かった。重症例と軽症例に分けてそれぞれの対照群との検討を行うと、内臓脂肪面積は重症群では対照群に比べ有意に多かったが、非重症群では対照群と差を認めなかった。

以上、本論文は急性膵炎患者において重症化と内臓脂肪面積・皮下脂肪面積・Alb が関係することを明らかにした。さらに内臓脂肪面積が多いと全身状態が悪化し重症化しやすいことと、局所合併症の中でとくに仮性嚢胞の合併率が高くなることを明らかにした。本研究は今後の急性膵炎患者に対する治療の向上に貢献すると考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。